

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・10月は衆議院選挙や大型台風があったが、引き続き国内観光客の売上が伸びており、全体売上は前年比103%、前々年比で121%と伸びている。北海道にもようやくアベノミクスの恩恵が表れ始めたかみている。ただ、当店に限れば、急激な少子化に伴い漁師の数が大幅に減少していることで原材料価格が上昇しているほか、人件費も上昇しているなど、経営面での影響が生じており、利益が前年から10%程度減少している。
		百貨店（売場主任）	競争相手の様子	・当社の10月の売上は前年比104%前後で推移しており、競合他店も前年比105～108%程度で推移している。当社だけの売上が良いのであれば、前年との施策の違いや品ぞろえの差などが影響しているとみられるが、市内全体的に売上が好調なことから、景気はやや良くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前月に引き続き外国人観光客の来店が伸びており、それに伴って客単価も上昇傾向となっている。特に特選ブランドや時計、化粧品で客単価アップ、売上アップが顕著となっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・比較的、価格の高い商材の売行きが良い。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・たばこや酒などの免許品を中心に客単価が上昇するなど、回復傾向がみられる。電子たばこの購入による上乗せや量販店などでの酒類の価格引上げの影響などの特殊要因が中心であるが、そのほかの商材についても客単価が下げ止まってきた。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・わずかではあるが、来場数や新車販売台数が前年よりも伸びている。
		自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・国内各メーカーでタイヤの値上げがあったにもかかわらず、販売量、単価共に前年比110%以上を維持している。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・徐々に前年並みの売上が確保できそうである。ただ、零細企業では、客の高齢化などにより経営が圧迫されてきている面がある。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣アジアから観光目的で訪れる外国人客が堅調に推移している。また、今年は当地でプロ野球クライマックスシリーズが行われなかったが、学会や研究会が開催されたことでカバーでき、減少分以上の売上を稼ぐことができた。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ここにきて下期の問い合わせ件数などが増加してきたことから、景気はやや上向いている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・衆議院選挙の影響による需要の停滞感があったが、稼働状況はおおむね堅調に推移した。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・技術売上は横ばい状態だが、関連商材の売上が前年から5%程度上昇している。やや割高な商材であっても、客が価値を認めれば買う傾向にある。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・衆議院選挙も終わり、株式市場も活況を呈していることから、景気は順調に上向きで推移している。客のムードもとても良い。
		商店街（代表者）	単価の動き	・高額商材の販売量が減っており、客単価が下がっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の動きに変化がないため、景気も変わらないままである。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・10月は衆議院選挙の影響で物販店や飲食店に大きな落ち込みがみられ、月を通してもばん回できない状況であった。	
	百貨店（担当者）	来客数の動き	・4月以降、周辺の客足動向は前年と比べて安定した増加傾向にあるが、やや高止まりしてきている。ただ、街ぐるみでの共催イベントなどがあると来客数は伸びる。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数が前年割れしている。客の節約志向も依然として変わっていない。近隣の競合店によるディスカウントの影響が大きい。	

スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ数年、競合のディスカウントストアの攻勢によって、来客数がかなり減少しており、売上もダウンしている。特に生鮮食料品の価格差が大きいことから、客がディスカウントストアに流れる傾向がみられる。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月と比べると、10月の来客数は増加しているものの、客単価が前年比マイナス1.5%、買上率が前年比マイナス3%となっており、どうにか前年並みの売上を維持している状況となっている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・たばこやビールなどの嗜好品の売上が増加している。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・依然として来客数が前年を下回っている。特に夕方から夜間にかけての落ち込みが大きい。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数、買上客数共に前年を下回っている。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・10月のスーツ関連の販売量は前年並みとなっている。付随するコート類の販売量にも大きな変動がみられず、景気は変わらない。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数は前年と比較してやや落ち込んでいる。ただ、売上は前年を上回っている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月に引き続き10月も新型車効果が続いている。ただ、11月になると雪が降り始めるため、これから販売量が段々と落ち込むことになる。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定していることから、景気に変化がみられない。
高級レストラン（経営者）	単価の動き	・物価がじわじわと上がってきている割に、給料が上がってこないため、家庭の負担が増大している。年末に備えて購買意欲が落ち込む時期であるため、当店のような飲食店は伸び悩んでいる。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・建設、土木などの一部の業種からの受注が好調であるが、市場全体が潤っているとまではいえない。
タクシー運転手	来客数の動き	・10月も前月までと同様に乗務員不足の影響でタクシーの稼働が悪い。タクシー1台当たりの売上は前年を3%程度上回っているが、会社の売上は前年比マイナス7%であった。
タクシー運転手	販売量の動き	・売上の減少傾向が続いている。当市の人口減少の影響が徐々に表面化してきている。
タクシー運転手	来客数の動き	・10月の利用状況は、前月と比べて10～15%の落ち込みとなっており、依然として厳しい状況が続いている。
通信会社（社員）	お客様の様子	・定例発売の商材の発売時期がずれ込んだことで、10月は全体的に活気が上がらずに終わった。
美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、売上がほとんど変わらない。
その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]（従業員）	来客数の動き	・観光シーズンも終盤を迎えたが、依然として見込み以上の輸送量がみられる。
住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・10月は衆議院選挙があり、選挙の結果次第で消費税などの動向が左右される可能性があったため、様子見している客が多かった。
商店街（代表者）	来客数の動き	・駐車場の在庫状況及びバスの乗降客数などから、商店街区域の10月の来客数を判断すると、初旬から中旬にかけては平日を中心に微減していたが、下旬は比較的多くの客がみられた。天候不順などの影響で、冬物用品などを買い求める客が多かった。ただ、売上を伸ばした3か月前と比べると、景気はやや悪い状況にある。
商店街（代表者）	来客数の動き	・衆議院選挙の影響で客足が遠のいた。
百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・来客数が前月に引き続きマイナスとなっている。特にイベントや催事の弱い週の落ち込みが大きく、雑貨部門や食品部門にも悪影響が生じている。
スーパー（役員）	それ以外	・水産業の不振が続いている。加工業者を含めて地域全体に影響が広がっている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・記録的不漁の影響で、港町の店舗では来客数の減少が著しい。

	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・地元基幹産業が低迷していることで、関連する業界も含めて、全般的に景気がやや悪くなっている。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車効果が全くみられず、販売量が伸びてこない。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・前年の北海道新幹線開業効果が薄れていることで、10月の来客数は前年実績のみならず、前々年実績も下回った。特に国内観光客の鈍化が顕著である。その一方で、東南アジアからの外国人観光客の姿が目立った。ランチは相変わらず満席になるが、以前と比べて待ち時間が少なくなっている。ディナーは7～8割の入込となっている。全体の来客数は前月に続き、前年を9%下回った。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・10月の売上は天候などの影響があり、やや悪かった。特に台風やみぞれに関する注意報が出るとフリー客が減少した。西洋料理が季節替わりにやや弱いことにも要因がある。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・10月は衆議院選挙があったことで、客の入込がやや少なかった。
	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・国内客は団体客、個人客共に予約状況が悪かった。外国人観光客は個人客の予約状況が増加傾向にあるものの、団体客が悪かった。10月は全体的に宿泊予約が低調であった。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・国内客、外国人観光客の端境期となり、これから冬の流水観光が始まるまでは来客数の伸びない時期となる。一方、管内からの旅行客は、高校の修学旅行や農業系団体などの需要が活発になる時期だが、全体的な旅行客数は夏場繁忙期には及ばない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・衆議院選挙の公示が始まった時期から利用客数がやや落ち込んだ。また、台風などの天候の影響もあり、観光目的の客からのキャンセルが発生した。
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・新商品が想定の7割程度しか売れなかった上、格安なサービスへの乗換えが想定よりも多かった。ただし、道内法人部門については好調を堅持している。
	観光名所(従業員)	販売量の動き	・当施設における飲食・販売部門の10月25日時点の売上は前年の約83%となっている。例年よりも早い冷え込みがみられることや台風の影響などで、来客数が減っている。
	パチンコ店(役員)	単価の動き	・冬に向けて、燃料などの単価が上昇していることで、消費者の生活が苦しくなっている。また、加工業、製造業にも影響が生じている。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・月によって来客数にばらつきがあることから、景気はやや悪くなっている。
	x 一般小売店 [酒](経営者)	お客様の様子	・当社の得意先である飲食店についてみると、食事が中心の店も、酒が中心の店も同様に客がとてもなく苦戦していたことから、当店の販売量も落ち込んだ。理由はよく分からないが、極端に売上の悪い月であった。
	x コンビニ(オーナー)	それ以外	・地元客が少なくなっている傾向にあるなかで、外国人観光客の利用も減ってきている。
	x タクシー運転手	販売量の動き	・売上が前年を下回り続けていることから、景気は確実に後退傾向にある。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-	-
	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前の7月の販売量は前年比92.8%であったが、10月の販売量は前年比99.8%であったことから、景気はやや良くなっている。
	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・工事の追い込み時期に入り、完成工事高が計画を上回っている。民間建築工事の引き合いも引き続き多い。
	通信業(営業担当)	取引先の様子	・取引先から、上半期を終えた段階での今期の業績見通しについて拡大傾向とみている話を聞く機会が増えている。
	コピーサービス業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・店舗展開している客先から、店舗の建て替えに関する話を最近よく聞くようになった。2018～2019年にかけての建て替えも複数件予定があるようである。
	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・人手不足の影響により省力化を進めようという動きが強まっており、生産効率改善のための設備需要などが増えてきている。
	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べても、特に売上に変化はみられず、前年とほぼ同様の状況で推移している。

	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・百貨店などの小売の状況が良くない。政治的に不安定な状況が市況に悪影響を及ぼしているようにみえる。天候不順も影響している。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中堅以上のゼネコン建築部門はおおむね年度内の受注目標を達成するなど、飽和状態にあり、新規受注物件に対応できない状況となっている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・道外との貨物の移出入量のバランスが取れてきたが、道内農産物の出荷もピークを迎えているため、全体的にトラック不足に陥っている。結果的に、価格の高い下請業者にも声をかけざるを得ず、忙しい割にもうかっていない状態となっている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅投資に陰りがみられる。公共投資もピークアウトしつつある。一方、小売販売額が堅調に推移するなど、個人消費は底堅く推移しており、道内景気は3か月前と比べて横ばいとなっている。
	司法書士	取引先の様子	・前年の同時期と比べて、不動産関係の売買取引、建物の建築などが下向き傾向にある。
	司法書士	取引先の様子	・日経平均株価が上昇傾向にあるものの、一向に景気回復の実感がない。また、衆議院選挙の影響による一過性のものか、季節的な要因かは不明だが、不動産取引の成約件数も減少している。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量の前年比をみると、前月は前年並みの伸びとなったが、10月は再び前年から5%程度の伸びを示している。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・農作物関連は、前年の不作の影響により倉庫の在庫もほとんどなかったことから、今秋の収穫が始まった8～10月までの輸送量が少なく、厳しい状態が続いている。また、北海道付近を台風が通過したことで、海上輸送への影響もみられた。
	x	-	-
雇用関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業の求人意欲が高まっている。特に営業職の求人依頼が多く、続いて経理、総務、IT系の人材へのニーズが強い。有効求人倍率が高いこともあり、すぐに採用できないことは企業側も承知しているようで、すぐ見付からなくても、継続して探してほしいとの要望も多い。企業の業績が安定又は拡大していることで、余裕のある様子がうかがえる。また、販売促進の人材ニーズも高く、企業の商材を売る意欲が高まっているようにみえる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・流通業の売上が前月を上回る傾向がみられる。また、新車販売台数や住宅着工数の伸びも顕著になってきている。これらのことから、当地の雇用環境はやや良くなっている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求職者数の動き	・紙媒体やWeb、SNSなどの媒体にかかわらず、求人に対する求職者の反応が著しく鈍化しつつある。全業種、全職種で同様の傾向がみられる。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・人手不足だが人材が集まらないため、求人を含める事業所が増えている。一方で、正社員化や制度、待遇の見直しなど、現在いる従業員を定着させるための動きが出てきている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・市役所の移転工事、駅前の再開発、台風被害の復旧工事など、公共事業を中心に、建築、土木系の事業が今後数年にわたり見込めるが、人手不足で仕事を受けられないケースも多く、道外の事業所に仕事が行われている。結果的に仕事はあっても、人を雇用することができないという課題が多く聞かれる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が5年11か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が8か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.09倍と前年を7年7か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設関連の受注が順調である。また、スキーなどの冬季アウトドアシーズンを控えて、宿泊業などにおいて体制を確保するための求人申込の動きがみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月の有効求人倍率は1.11倍となり、1年1か月ぶりに前年を上回った。業種によっては人手不足が深刻化している。
	*	*	*
	x	-	-